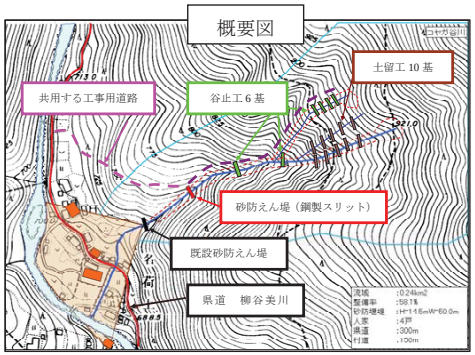
■ 「効果の見える治水事業」
愛媛県　コヤガ谷川（久万高原町）
砂防事業と治山事業との連携

愛媛県中予地方局久万高原土木事務所長　嶋田　哲郎

■箇所概要

コヤガ谷川は、高知県境に近い県中央部に位置する流域面積0.24km2の土石流危険渓流で、平成16年10月台風２３号による豪雨で山腹崩壊が発生しましたが、人家直上流には、砂防えん堤が整備されていたことから、幸い土石流被害は免れました。

しかしながら、渓流内には多量の土石とともに倒木が堆積しており、次期出水時にはこれらの不安定な土石が満砂した砂防えん堤を越え、下流へ流出するおそれがあるため、新たな砂防えん堤を計画しました。



■事業概要

本県では、平成１６年の相次ぐ台風襲来により東予東部を中心に土砂・流木災害などによる甚大な被害が発生したことを踏まえ、流域全体を視野に入れた土砂災害対策を進めており、土砂災害防止施設の整備にあたっては、砂防事業だけでなく、森林整備・治山事業がともに連携して取り組んでいます。

コヤガ谷川では、砂防・治山事業が調整し、下流に砂防えん堤を１基、上流域には治山事業で、谷止工６基・土留工10基・山腹緑化0.3haを整備しました。

■事業連携による効果

谷止工による土砂発生抑制量を計上することにより堤高14.5mの透過型砂防えん堤でも土砂整備率１００％の確保が可能となり、施工にあたっても、砂防えん堤の工事用道路を谷止工と共用することができるなど、効果的・効率的な事業計画を策定し、コスト縮減と事業効果の早期発現を図ることができました。

今後とも、流域一体となった土砂災害防止に取り組み、地域住民の安全・安心な暮らしの確保に努めてまいりたいと考えています。

■砂防工事の内容
施工箇所：上浮穴郡久万高原町西谷
施工期間：平成17～23年度
全体事業費：３０８百万円
砂防えん堤：堤高14.5m、堤長50m
（鋼製スリットによる透過型）

完成した砂防えん堤

完成した治山事業による谷止工

地域防災力による「災害につよいまちづくり」を目指して

本町は、愛媛県のほぼ中央部に位置し、平成１６年８月に久万町、面河村、美川村及び柳谷村の１町３村が合併して久万高原町になりました。県都松山市から国道33号、三坂道路を経て町の中心部まで約30ｋｍ。総面積は584㎢、人口は約10,000人で、標高1,000mを超える四国山地に囲まれ、町内には一級河川仁淀川の支流にあたる、面河川と久万川が走る高原と渓谷のまちです。

久万高原町長　髙野宗城

また、「ひと・里・森がふれあいともに輝く元気なまち」をキャッチフレーズに、豊かな自然環境と人々の生活が調和した元気なまちづくりを推進し、農林業とともに観光振興にも力を入れています。

さて、「災害につよいまちづくり」ということですが、残念ながら町内には土砂災害危険箇所が554箇所も在ります。平成16年の台風16号では、町内各地に土砂災害が発生し大きな被害を受けました。また、国が公表している深層崩壊に関する全国マップによると、土砂災害の相対的な発生頻度が「特に高い」地域とされています。近年ゲリラ豪雨と言われる集中豪雨が全国各地で頻発する中、土砂災害のリスクは以前と比べ、格段に高まっているのではないかと感じています。

過疎高齢化の進展により、町の人口は10,000人を割り込み、高齢化率は４３％を上回っています。地域を守る消防団も同じく団員の減少と高齢化が進み、このままでは災害の危険が迫った場合の避難誘導や災害時の対応に支障が出ることが危惧されています。

いざ災害が発生すると、行政の対応だけでは自ずと限界があることから、「自助・共助・公助」の仕組みを整えた上で、「自分の命は自分で守る」との意識を高めることが、「地域防災力」を向上させることに繋がるのだと思います。

土砂災害危険箇所マップ（久万地区）

その一環として、土砂災害危険箇所や安全な場所を町民に理解していただくことを目的に、平成23年度から、国の社会資本整備総合交付金を活用して「マップ」を作成し、現地に看板を設置する事業に取り組んでいるところです。自然災害の猛威から被害を最小限に抑えるためには「災害につよいまちづくり」を推進することが重要であり、引き続き防災訓練等の実施を重ね、行政と住民が一体となって地域の防災力を向上させる減災対策に努めてまいりたいと考えています。

位置図

平成１６年８月台風１６号による被災状況

久万高原ふるさと旅行村

面河渓谷